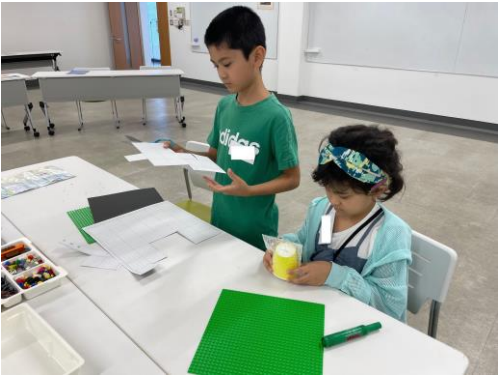


那覇市長 宛		令和 7 年 9 月 25 日	
		団体名 株式会社FROGS	
		代表者 山崎暁	
		担当者 畑中ひらり	
「なは市民活動支援事業」			
中間報告書			
令和7年6月13日付け、那覇市指令市ま第1086号で交付決定の通知を受けた当該事業について、現時点での進捗を下記のとおり報告します。また、市ホームページへの掲載を承認し、中間報告会で他団体とも内容を共有します。			
1.事業名	親子で未来を切り拓く！非認知能力を育む学びと対話のワークショップ		
2.実施内容	未来社会やテクノロジーをテーマにした創造的なワークショップを那覇市内の小学4年生～中学3年生を対象に行なった。また、同時間で保護者は同時間で「テストの点だけじゃない“これからの学び”～非認知能力と家庭のかかわり～」がテーマの講演会を聞き、学びを深めた。 【8/2実施】 「未来の街をデザインしよう！～2035年の暮らしを考える～」実施内容 ・実施場所: なは市民活動支援センター2階会議室 ・対象: 小学4年生～中学3年生（当日は小学2年生～中学1年生の兄弟も含む5名が参加） ・ワークショップの流れ: 未来の街を想像し、現在の課題を解決するような未来の街の要素を考案。そのアイデアを実際に工作で形にしていくなかでアクティビティを実施。 ・印象的な点: 子どもたちは非常に集中して取り組み、時間が過ぎても「もっと作りたい！」と意欲的に未来の街を形にしていた。 【9/23実施】 「〇〇×テクノロジーで新しい道具を考えよう！」実施内容 ・実施場所: なは市民活動支援センター2階会議室 ・対象: 小学4年生～中学3年生（応募者数17名、当日は小学4年生・5年生の2名が参加） ・ワークショップの流れ: IoTブロックMESHを用いて、日々感じている課題を解決する新しい道具を作り、発表した。 ・印象的な点: 家での困り事や公園での困り事など、身近な課題を洗い出し、新しいアイデアを考えた。そのアイデアを形にしていく段階で、センサーを設置する位置や課題解決の方法など試行錯誤しながら作り上げていたのが印象的だった。		
3.事業を一言で表現すると	子どもと保護者がそれぞれの立場で学び合うワークショップを行うことで、非認知能力の育成と家庭内の対話、地域ぐるみで子どもを育てる土壌の形成を実現する。		
4.これまでの活動の振り返り	【良かった点】 子ども向けワークショップでは、未来の街や身近な課題をテーマに、創造力を活かした取り組みが見られた。特に、8月2日の回では、子どもたちが時間を忘れて工作に没頭する姿が印象的だった。また、9月23日の回では、IoTブロック「MESH」を使って現実の課題を解決する道具を考えるというプロセスを通じて、課題発見からアイデアの具現化までを体験できた。 加えて、保護者向けには「非認知能力と家庭のかかわり」に関する講演会を同時時間帯に実施し、子どもと保護者がそれぞれ学びの機会を得られる構成にできたことも成果である。	【改善点・今後につなげる点】 参加者募集に関して、夏休み中の実施だった8月のワークショップでは、参加者が比較的集まりにくかった。これは、家庭の予定がすでに埋まっている時期であったことが要因と考えられるため、今後は申込開始時期を早めるなど工夫が必要である。 また、9月23日実施分については、17名から応募があり抽選を実施し10名を選んだが、当日のキャンセルや無断キャンセルが相次ぎ、当日参加者は2名という結果になった。保護者への連絡手段について、メールは開封されにくく、電話もつながりにくいケースが多かった。今後は、SMSの活用や、LINEを活用することで、確実なかつ気軽に連絡がとれるよう工夫していきたい。	

5.今後の活動予定 (事業期間内又はすでに終了した団体については次の予定)	10月18日(土)「未来の街をデザインしよう!～2035年の暮らしを考える～」ワークショップ実施 場所: なは市民活動支援センター 対象: 那覇市在住の小学4年生～中学3年生とその保護者 定員: 10名 11月24日(月祝)「未来の仕事発見ラボ～まだない職業をつくってみよう～」ワークショップ実施 場所: なは市民活動支援センター 対象: 那覇市在住の小学4年生～中学3年生とその保護者 定員: 10名 12月28日(日)「OO×テクノロジーで新しい道具を考えよう!」ワークショップ実施 場所: なは市民活動支援センター 対象: 那覇市在住の小学4年生～中学3年生とその保護者 定員: 10名 第二回ワークショップ(8/23)が中止となったので、別日で実施できないか検討中。
6.活動写真 (簡単な説明文を記入)	 (未来の街をデザインするワークショップで、子どもたちが“今の課題を解決するために未来にあったらいいな”と思うアイデアを、工作で形にしている様子)  (みんなで作った未来の街を囲み、自分が作った物を発表している様子)  (講義の説明を受けている様子)  (IoTブロックMESHを使って作ったものを発表している様子)
7.今回の達成目標 (当初の事業計画書に記載した目標)	・延べ参加組数: 7組回保護者満足度: 100%回学生満足度: 100%
8.現時点の目標達成度 (例: 60%達成)	達成度: 約13%